

若槻禮次郎コレクション ——禮次郎が愛用した品々——

若槻禮次郎(1866—1949)は松江の雑賀町で足輕の子として生まれます。苦学して上京し、帝国大学卒業後に官僚になります。禮次郎は大正から昭和初期にかけ二度の内閣総理大臣、また世界平和に貢献したロンドン海軍軍縮会議の日本の首席全権として参加します。戦争中は重臣として国を終戦へと導きました。

本年は明治維新 150 年にあたり、明治時代に活躍した若槻禮次郎を顕彰し、その遺品を公開します。

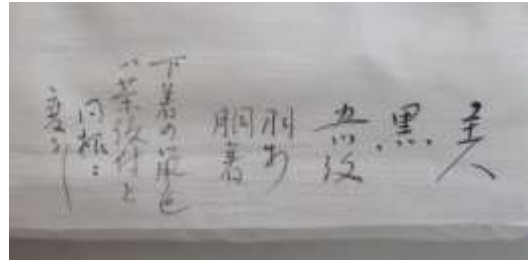


シルクハット

禮次郎は昭和 5(1930)年にイギリスのロンドンで開催されたロンドン海軍軍縮会議に日本の首席全権として参加した。この洋行の際に着用したシルクハットである。内側には、禮次郎のイニシャルである「R. W」が記されている。



内側のイニシャル「RW」



羽織

禮次郎は和装を好み、特に自宅では着物を愛用していた。この羽織は若槻家の家紋である九曜紋がほどこされている。着物は妻の徳子が整理し、着物の包袋にはメモが記されている。禮次郎の着替えの際には徳子が着付けていた。



杖

立ち姿の禮次郎の写真には必ずと言ってよいほど杖を携えて、杖を愛用していたことがわかる。遺品には4本の杖があり、今回はそのうちの2本を展示する。



若槻禮次郎、徳子夫妻
昭和10(1935)年、松江で撮影